

パパ随想

金子貞子

「たつみ」三十八号をパラパラ繰っていきましたら、父の遺稿をみつける前になつかしい横文字の父の筆跡が目に入り、急ぎ文面に目を走らせました。そしてやっと本当に父を認めて下さる方、吉田先生に出合った喜びを感じました。沢山認めて下さる方は有っても半面の父でしか無く、悲しい想い出の方が多く心に残って居ります。これを書く気になったのは亡くなる少し前に頼まれた母の意志もあり、どんな形で書こうかと迷っていた処へ丁度この吉田先生の記事に出会いましたので思い切って書くことにしました。



先づ題のパパは、当時（大正の

始め）我が家では父はハイカラさんでパパさんと呼んでいて、それが父に対して最も親しみを現す言葉となっていましたのでそのパパを取りました。

父はMIT（ボストンテクとかマサチューセッツ工科大学と呼ばれる）を卒業したことを大変誇りにして居り、丁度東郷元帥が海軍からの留学生として暫く御一緒だった話をよくしていました。真面目人間の父は、講義には休まず出席し相当苦勞をしてこの大学を卒業したのだと、証書を見せ乍ら述懐する様に話してくれました。

夢と希望と不安を胸に帰った父を当時の人達は金で買った卒業証と言い誰も受け入れる人がなく、また父が研究所を作って欲しいと願った時も一瞥もされなかったと言ふ事で、その時分のやり切れない悲しさ、口惜しい気持ちのやり場を父の遺稿にある片意地と言つてもいい、「ひかえ目」を固持する事で貫き通したのだと思います。家庭内でも教育の差が父への理解を欠いて居たことが多々有った様でした。パッ子の私はそんな父の気持をよく理解出来、お蔭で父に

学ぶ事の大きかったことを今も感謝しています。晩年母もそのことを大変残念がり、よく私にこぼしていました。

吉田先生の文の中に出て来るセントラル・カレッジは大学ではなく、日本では言えば高校で大学への足がかりに行つて居たものです。生涯を通じてよく勉強した人だったと思います。

新しい合理的な日用品で、これは便利だと思えばすぐ家庭に持ち込み母をよく面喰らわせていました。しかし中には大変重宝なものが沢山有りその様なものは大いに歓迎されていました。

よく新しい化学の事で父と議論し合うのも楽しい事でした。

また父は確に字を書くのは苦手だった様で、特に日本語は苦手で書けば万葉仮名の難かしいくずし字しか書けず、旅先からのめつたに出来ない珍らしい葉書等はいつも英文でその方が読みやすくわかりやすいでした。

父のサインがEではじまるのはIで始めるとアイワゾウと発音されて困ったあげく、Eにして解決したのだそうです。小さい時から時々父について旅

「お家はん」

鈴木よねの思い出を

柳田義一氏に聞く
聞き手・野網敏一氏

— よねは商人妻としてどのようなお人柄でしたか。

柳田 そうですね。一口にいつて、かゆいところへ手の届く女性でしたね。

— なぜ「お家はん」と呼んでいたんですか。

柳田 私の父が番頭第一号で、続いて入店した傑物金子直吉が、大阪商人は女主人のことを「お家さん」と呼ぶからといったのが、後に「さん」が「はん」に変つてしまったのです。ご主人のことは大将と呼んでいました。

人生勉強の指針

— あなたは、お家はんにたいへん可愛いがられたそうですね。

柳田 砂糖商の辰巳商店は海岸通四丁目西村旅館を西に入った三

をし、色々旅のエチケット、自分の事は自分でする、時刻表の見方、活用の仕方等を習い、少し大きくなるとそれを利用して時間の無駄なくどう汽車を乗り継いで旅を進めると良いか、その通り実行して後でそれに対する感想、批評等で旅の楽しみが幾倍にもなる様にしてくれた事は有難い事でした。しかし父の旅への夢は家族揃って出掛ける事でした。色々の面で事情が許さなかつた事は御承知の方も沢山あると思います。それでも唯一度だけ、姉は結婚して居て参加出来ませんでした。瀬戸内海を旅した事が有りました。その時の両親の満足でうれしそうな顔は今も昨日の様に思出します。

私達家の者が見ていた父はいつても口数の少い物静かで優しく思いやりのある学究の人であり、その半面祖母に似て陽気な事の好きな最も純粹なお人好し、アメリカ的なジョークが好きで浪花節で涙を流す様な人でした。外人のおつき合も多く、そのおしゃべりは全く日本人離れて見事なもので、色々な事に随分貢献していた様ですが、いつも縁の下力もちの様な立場でいた様な気がします。

軒目山側で創業し、私の家はその東隣りでした。赤子の時から抱いてもらつたり、風呂に入れてもらいました。物心がついたころはいつも旅行に連れて行かれ、まつたけ狩りや鶴飼いに同伴させられました。少し大きくなつてからはよく叱られました。後で考えてみるとなるほどと思うことが多く、私の人生勉強の指針となりました。

— お家はんの日常生活はどうでしたか。

柳田 私が今でも感心していることは、個人商店時代のお家はんも、大商店の女主人となつた時代のお家はんも、全くその生活は変わらず、終始一貫して同じつましい生活を続けられていました。日常生活も始末そのもので、お魚などめつたに食べず、いつもちりめんじやこに大根おろしがおかずでした。古布を一度に多量買いこんで毎日毎日ヒマさえあればさしこの雑巾づくりにけんめいでした。出来上つた雑巾は店の用と、後には社員全員にやっていました。

幾百人の大家庭の女主人

— お家はんの鈴木商店での仕事ぶりは……。

柳田 商売のことはいつさい金子

前に書きました様に理解されない心の穴埋めに、若い頃は釣や射撃、猿やゴルフ等と、年とつてからはゴルフや酒、競馬と私達にはどう仕様もない気の毒なむなしさ、自分でもいつもそのむなしさ淋しさをかみしめていた様です。

後に母は、父が研究所を欲しが



鈴木岩蔵殿

三十三回忌法要

今回会長鈴木治雄殿、岩蔵殿の三十三回忌を迎えることとなり、去る四月二日（土）（命日五八、四、四）ポートピアホテル内「招福楼」に於いて御一族相集りしめやかに御法要営まれ「斎」ともなれば施主鈴木会長から御丁寧なる御挨拶あり参会者の皆様からも御在世の忍び草を語り合つて時の過ぎるのをしばし忘れた。

岩蔵忌久々の野に

ある雲雀かな



と柳田にまかせ切りでしたが、最終的な判断は自分がしていました。早くから主人に死に別れ、女主人ではあったが、自分の仕事は社員のコミュニケーションに重点を置き、時々社員の妻との連絡、社員の家庭に目を注ぎ、幾百人の大家庭の女主人ともいえませんでしたね。

——社員の世話をよくされたとか。
柳田 住いを海岸通の店から須磨に移し、屋敷が広がったので自分と男衆とで野菜をつくり、会社へ持ってゆき社員に家庭に持ち帰らせました。社員の結婚相手は自分が走り回り、候補者を探し結婚式には式服いっさいを与え給料も必ず上げ、わが子の結婚式と同じようにしてました。

自分の子供は男の子であっても会社の重要なポストを与えない。これは大阪商人の習慣であって、娘には将来見込みのある青年と結婚させ重役にした。高畑誠一（日商岩井）がその見本で彼は若くしてロンドン支店長としてその手腕を発揮し、日本一の大商社に発展させた人物です。

正月には社員を家族同伴で 鈴木御殿へ招待

——ところでご主人の岩治郎はどんな人でしたか。

柳田 大將はたいへん厳しい人で、気の荒い人でした。妻よねが姫路へ里帰り、そして帰る日が一日でも遅いと離縁してやるから帰らずともよいといつて見たり、またよく遊んだ人で夜遅く店に帰り戸をトントンとたたいて起きて出るのが少しでも遅くなるとすぐ引き返して泊ってくるといったちようしです。いつも胃腸が悪かったようですが、長煩いはせず六十歳で亡くなりました。お家は自分は女主人であるといった意識が強く、お正月には亡き主人が使っていた赤膳でお祝いをしました。昔は男が赤膳で、女は黒膳をつかったものです。社員を集めてその前で自分は女主人であることを誇示したのでしょうか。お月には社員全員を家族同伴で須磨の鈴木御殿へ招待し、お祝いをしました。その時一年中のもらい物は蔵の中へ入れて置いて、それを出して福引会をやり、砂糖や羊かんはぜんざいにして子供たちに食べさせてました。羊かんはカチカチになって

いるし、カステラはカビが生えていましたので私などよくカビ臭いカステラをいただいたものです。社員の転勤には必ず銭別に浴衣一反をそえて与えられました。

早くも女子の商業教育を

——お家は娘の女子教育については……
柳田 年をとられてからこれからの社会は女子が男性の分野へ進出する時代が必ずくる。それには女子に商業教育が必要であるとの考えから神戸女子商業学校を元町四丁目山側に創設しました。私の県商時代にですが、岡田校長を引き抜いて女子商業の校長に迎えました。卒業式には必ず全員を自宅に招待してお祝いをしていました。その時代としては珍しいタイププライター部もあり、卒業生を会社採用し、現在「辰巳会」の会員の中にも当時会社のタイピストのお婆さん三人が健在です。

——大正七年の焼き打ち事件のときどうしてましたか。

柳田 私はその時海外へ出張をしていますが、帰ってからお見舞いに参りますと、お家は娘は何事もなかったかのように平然としていられましたよ。

旅の思ひ出

九州路とところ処（下）

雲仙—島原—阿蘇

未だ国鉄新幹線の無い頃、長崎本線の諫早で下車神戸からの長旅での腰の疼れを伸ばした後バスに乗り換えて雲仙に向ふ。途中窓の外の民家の堀越しに、いかめしい一人の軍人の立像が屹立しているのが目についた。敗戦後の事であり世間では軍人の像は殆んど撤収されていたが、吾が家の庭に立っていて何の咎めがあらうといふ事だらう銅像の主は海軍の（旅順閉塞）広瀬中佐と並び称された陸軍の橋（大隊長）中佐の勇姿である。途中愛野の展望台のある処で少憩、眼下に広がる波静かな湾内を俯瞰してゐる内フト中学の同窓田村君の面影が浮かんで来た。彼は中学四年から海兵に進み、航空中尉の時この大村湾上空で僚機と接触墜死した。彼は兵庫県朝来郡の郡長の息で名は英俊惜しい男を亡くしたものである。一年下の庵原貢君が、更生連合艦隊司令長官を経て、鈴木貫太郎終戦内閣の秘書官を勤

(7) 藤澤義夫

めた後三菱重工の顧問を長く勤めていた事と思ひ合はせ不運といふより外は無い。
後暫くして雲仙に着く。つ、じの名所、内地と違って背丈があり花の下を潜って、仁田峠の見晴らし台に立って俯瞰した風景は真に絶景かな素晴らしい哉の一語に尽きる。ホテルの傍を流れる小川の岸に当時大流行した映画「君の名は」の碑が建っていた。
島原は江戸幕府の初期「切支丹弾圧」に抵抗して天草四郎時貞を陣頭に数方の農民が蜂起玉砕した処、そこを立って対岸三角に渡り熊本を経て豊肥本線で、まこと絵に画いたような阿蘇の外輪山を見渡せる「内の牧」に一泊、翌日阿蘇に登った。登山バスの終点で草履にはき換へ石ころの急坂を登りつめ、轟々と響く地鳴りと噴煙の凄まじい火口を俯瞰した時の凄絶さは今も忘れられない。その後別府の温泉で旅の疲れを医し翌日海路神戸へ戻った。

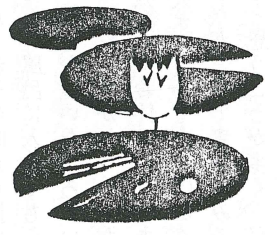
宮崎—高千穂—桜島

夕刻川崎を出航した一万屯の力

——晩年はいかがでしたか。
柳田 お家は娘は魚つりが好きで、塩屋の浜へよく出かけていました。また和歌にこって西宮の吉井さん（戒神社）へ月二回ほど通っていました。

お家は娘からの教訓

——あなたがお家は娘から得た教訓は……
柳田 私は子供のころ毎日のように碁盤に向って五目並べの相手させられました。お家は娘はいつも二目並べならすぐに「義ちゃんそれ止めんかいな」といわれました。普通は三目で止めるのが、なぜ二目で止めるのか、今から考えますと何事も早い目早い目手配しろ、早い目に対策をたてよとの教訓だったんですよ。



は以前は一軒の土産物店があるだけの淋しい処だったが今は洋館の料飲店が立並び賑やかな遊樂地と変ってゐた。しかし薩摩藩の武士達が廻水に杯を浮かべて酒宴を張ったと言ふ「曲水の庭」は昔の儘の風情を忍ばせている。
鹿児島は景勝地へ通ずる幹線道路が良く整備されてゐる道の中央と両側にはハイビスカスが咲き競ひ見事だった。又ハネムーンのメツカ指宿を経て長崎鼻にある西洋植物公園は珍しい植物や採色美しい鳥類が頭の上を飛び交ひ異国にきたような感を覚えた。又一抱へもある大鰻の棲息する池田湖を訪ね実物を検分した。そして帰りは鹿児島空港から羽田へ直航した。

鈴木タイプ一代女 古出よね姉の思ひ出

唐戸登美

去る昭和五十八年二月二十一日突然古出さんが交通事故で兵庫医大病院に御入院と言う電話を姪御さんの三重さんから頂いた。

折り悪しく御宅の前での遭難で頭部打撲、意識不明、手術不明の三悪条件の下に危篤と言われたので娘の言うがま、に大急ぎで仕度